

# Strange Aoyama

-How to rebuild your squad? -

高阪勇輔(通称：三四郎)

(青山学院大学 ESS ディベートセクション 2000 年度、2001 年度チーフ)

## 1. Introduction

### "Strong Aoyama"

かつての青学は自らをこのように呼んで、数々の栄光を手にしてきたと聞いています。しかし Section 員の急激な減少など色々な原因により大会の Best 8 に青学の名前が聞かれなくなった今日この頃、このような言葉が存在していたということを知っている Debater はあまりいいのではないかと思います。しかし最近では大会で Best 8 とはいかないものの、1~2 年前では考えられなかったくらいまで建て直しがはかれているのも事実であると思います。

最近よく言われる Debater 人口減少により大規模な Squad であっても、新入生が Debate Section に入らず、Section 運営の危機に陥ってしまうということが他人事ではないと思います。また元々人数の少ない Squad はどうすれば建て直しがはかれるのかということ、3 年生がいなかったために 2 年生からチーフをすることになった私の経験から「何が Section 員を減少させるのか?」「どのように危機を切り抜ければいいのか?」という 2 つの問いに対する何らかの解答を見いだしていただけたら幸いです。また、このような機会を与えてくれた NAFA に感謝します。

## 2. Strong OB & OG

Strong Aoyama というのですから当然偉大な OB、OG の方々がいるわけですが、青学が危機を何とか乗り越えられてきたのも OB や OG の協力なしでは無理だったと思います。青学 Debate Section には OB 名簿というものがあり、Section が設立(昭和 41 年)されてからの卒業生の名前 & 連絡先が記してあります。この名簿を元に OB、OG の方々(Section の予算的に全員というわけにはいきませんが...)に試合の結果報告や現役生との飲み会の招待状を定期的に送ったりしています。

こうした定期的な連絡のおかげで、OB、OG にとっては Debate が過去にやっていた思い出としてしまうのではなく、Debate に何らかの興味

を持ち続けるきっかけになっていると思います。さらに飲み会などでは Debate をやっていた頃の思い出話が出来たりできますし、お酒が入っているということも手伝ってか現役生が OB、OG とともに非常に仲良くなれたりします。OB、OG の方々は現役の頃に Debate に打ち込んでいるはずですし、そういった方から有益なアドバイスが得られるはずなので、OB、OG 名簿などを作成してない大学があるのであれば、分かる範囲でもいいので作ってみたらどうでしょうか? OB、OG の方々としても現役生が頑張ってくれる姿を望んでいるでしょうから、有益なことはあっても害はないと思いますので検討してみてもいいでしょうか?

また私が 2 年生でチーフをやるということが決まったとき、色々な OB、OG の方々が前代未聞の事態で大変だろうからという理由で色々協力してくれたのも、OB、OG の方々の定期的な連絡なしではなかったと思います。

たとえ OB、OG 自身が Debate があまり強くなかったからという理由で Debate についてのアドバイスが出来ないと思っていたとしても、Squad の運営方法とか、現役の時にこうしたらもっと良かったと思うこと等、現役生に向けてアドバイスすることは可能ですし、そういったアドバイスは現役生にとっても非常に参考になると思います。

ですから Debater も Debate のことで悩みとかがあれば、自分の中にしまい込んだり友人に愚痴ったりするのではなく、Debate については多くの経験を持っている OB、OG に相談した方がよい解決策を教えてくれることも多いと思うので積極的にコンタクトをとったらどうでしょうか? 仕事等で忙しくない限り相談に乗ってくれる方は探せば必ずいるはずなのでそういった方にアドバイスを請うのをお勧めします。

たとえ Debate のやり方が分からなくて自分の大学に Debate を教えてくれる OB、OG がいなかったとしても NAFA のピースコ制度によって他大学の Debate の上手い方から Debate を教えて貰えるシステムがあるのでそういった制度を利用されてはどうでしょうか?

以下に現役を退いても色々協力してくださった青学の主なOB、OGを紹介しようと思います。

荻窪さん(通称:シエーさん)

93年度のチーフをされていた方で、最近の青学がStrong Aoyamaでないという理由である日「Debateを直接教えたい!」と電話がかかってきて、夏の合宿でTheory 関連(Topicality、Counterplan、Counterwarrant)を中心に教えて頂きました。

青学の最強のチーフの1人に数えられているらしく、引退してからかなり時間がたっているのに関わらずDebateのことを忘れずに明確に覚えられて驚きました。最近のDebateが証拠資料のExtensionに終始していることに対して、非常に不満を抱いていたらしく、本当のDebateのあるべき姿について翌日に仕事があるのにも関わらず夜中の2時迄熱く語って下さったのが印象的でした。

中さん(通称:吉衛門さん)

96年の総務をされていた方で、現役当時はJNDTとTIDLで準優勝と非常に活躍された方なのですが、そのようなことを鼻にかけることは全くせず非常に面白い方で常にみんなを楽しませてくれます。その生き方に憧れて中さんを目指してSection内でプレパに励む人も少なからずいるのも確かです。プレパ方法からArgumentの作り方やSquadの運営方法、さらには女性の口説き方に至るまで、Debateだけではなく実生活についてもありとあらゆることを教えて頂きました。お陰でDebateをどのように日常生活に活用できるかが中さんの生き様をみて知ることが出来ました。さらに仕事と司法試験の勉強で多忙であるのに関わらず時間があるときに独自にリサーチまでして頂き感謝を言葉で表すのは非常に難しいです。

荻田さん(通称:Jojoさん)

97年のチーフをされていた方で、現役当時は超高速デリバリーで鬼のようなCase attackで勝ちまくっていたと聞いています。興味のないものは全然やらないけど、興味を持てば爆発的に頑張るという方でDebateも3年になって爆発的にプレパをして急激に上手くなったそうです。Argumentについて相談すると、「もうDebateの

こと、よく覚えてないよ~」と言いつつも、どうすればいいかを細かいところまで教えて貰ったりして非常に参考になりました。どのようなCaseが強いのかとか、Debate Sectionのチーフは統計的にモテるから(私に限ってその様なことはないので...)どのようにみんなに接していたのかなどの思い出話等を電話で夜中まで教えてくれたりもしました。

村上さん(通称:Naoさん)

98年のチーフをされていた方で、非常に美しい容姿&デリバリーで有名だったそうです。村上さんがチーフをされていた当時、3年生が村上さんしかいなかったらしく常に2年生をパートナーに大会に出るといった状況だったので、私が2年の時2年生しかいないSquadの大変さを誰よりも理解してくれ、人が少ない時のSquadの運営方法や下級生をパートナーにするときにどのような態度で大会に臨むべきかなどを教えて頂きました。私がDebateのことやプライベートなことで悩みがあったりした時に、翌日に仕事があるに関わらず悩みなどを夜遅くまで聞いてくれたり、自分はどのようにして切り抜けたかなどのアドバイスを頂き、私自身としても辛い状況でも何とか切り抜けることが出来たのもNaoさんのおかげだと思っています。

### 3. How did Aoyama fall into the depression?

青学ESSの1年生は夏休みの合宿で、Debate、Discussion、Pronunciation、Speechから自分のやりたいSectionを選ぶのですが、私がDebate Sectionに入る前、2年生は0人、3年生が2人、4年生(引退していましたが)が1人と現役でDebateをやっている人が2人しかいないという状況でした。当時の3年生は私がSectionに入る前の前期の間にDebate Sectionを今後どうするかについて真剣に悩んでいたらしく、大会はほとんど出ないでParliamentary Debateの試合を実際に行ったりしてこれからの青学Debate Sectionがどの道を進めばいいか模索していたと聞いています。これからの道を模索しすぎて大会に出てDebateをあまりやらなかったのが、当時の3年生はDebateでは成績は残せませんでした。彼らがこれからの方針をきちんと打ち出していなかったら今の青学Debate Sectionが何をやるかが曖昧な状態になっていたと思うので、その点においては感謝しています。

また、夏休みの合宿の時に1年生に上手く Debate がアピール出来ず Debate はなんだか難しい用語やルールばかりであり楽しくなさそうとか、Debate は凄く大変で訳がわからないからやめた方がいいという他 Section の先輩の噂のためか Debate をやりたい人は何人がいたのに関わらず、結局 Section に入ったのは私を含めて2人だけでした。

1年の時は Debate を当時の3年生に教えて貰ったのですが、質問をすると色々なことを教えるように話がふくらみすぎてしまうため、関係のない話で質問の答えがぼやけてしまうという状況で、教えて貰って明確に記憶に残ったものは「自分の出す議論には理由が必要」等の非常に基礎的なことしかありませんでした。SIDT Freshman に出場するときには先輩達が SIDT に出ないという状況だったと言うのもあったと思いますが、先輩の協力はあまりなかったため、パートナーと一緒に集めた Evidence のみで Debate が何なのかよくわからないまま試合に臨んで全く勝てなかった記憶があります。

試合が終わってから先輩に「どうして Empirical evidence を Drop したんだ？やる気あるの？」と怒られて、その時になって初めてどうやって Debate をやれば良いのかをきちんと教えて貰えた記憶があります。

ですから1年生の時は普段先輩に聞いても曖昧な答えしか返ってこないもので、試合後に先輩に厳しいアドバイスを受けて、試合後に是澤さんなどといった Judge さんにルールを教える貰ったり、*Debate Forum* 等を自分で買ったり、Debate のレクチャー会の情報を得ては行ったりして Debate について勉強しました。さらに2年になったら私がチーフをやることになることは薄々感じていたので、翌年になったら自分が中心にリサーチをしなければならぬと考えていたので3年生と同じくらいの量のリサーチをして頑張っていました。

4. How did Aoyama come back from the hell?

#### 4.1 反面教師

自分が1年から2年になる時、どうすれば Section を立て直せるかということを考えてのですが、まず思ったことは「先輩を反面教師にする」ということでした。というのも当時の3年の先輩を分析したところ、「Debate で使われる専門用語ばかり使い、話が長すぎるので何を言

いたいのがよくわからない」「質問をしても関係のない話をして答えがないのでどうしていいかわからない」と言うものでした。また、これが原因で夏の Section を決めるキャンプでもほとんどの1年生が「Debate って何なのか訳がわからないから...」という理由で Debate Section に入るのを断念した人が多かったそうです。ということで、この点を改善すれば Debate においても Judge に言いたいことが簡潔に上手く伝えられるという意味で Debate も上手くなると思いましたが、潜在的に Debate をやりたい1年生が Debate Section に入ってくれると思いました。そこで2年の夏の合宿では先輩の欠点を改善して1年生に Debate は難しいものでなく楽しいものなんだということを教えたら予想以上の反響で、例年よりも多くの1年生が Section に入ってくれました。ですから先輩に Debate が上手い人がいなかったとしても、それで落ち込むのではなく逆に反面教師にすることによって良い結果が残せると考えた方が建設的だと思います。

#### 4.2 試行錯誤

私が2年になって OB が協力してくれる中で Section の運営を任せられたからといっても、始めから上手くいった訳ではなく、当然ながら数々の失敗を繰り返して今に至りました。

最大の失敗は同じ学年の人に Debate の魅力・意義を上手く伝えられなかったことにあると思います。私が2年になった前期の Section のメンバーは1年の後期にまだ Section を決めていない人を Section に入れることに成功したので私以外には3人いたのですが、3人とも Debate 経験が全くないという状況であったので、私が Debate を教えつつ実験などの学科の授業で忙しい中リサーチもやっていました。その時に他のメンバーには Debate を始めたばかりだからリサーチは全然出来ないから代わりにやってくれといわれ、それに応じてしまったため全ての大学の対策を私一人でこなす結果となってしまいました。更に英語に訳した証拠資料を読む量が多くて大変だからモデルのように日本語の原文も一緒に載せてくれと言われたのに応じてしまい、しまいにはまだ始めたばかりだから英語が喋れないからスピーチの原稿を書いてくれと言う要望にまで応じて甘やかしてしまったため、いつまで経っても何も出来ずにどうして Debate が楽しいものなのかを見いだしてあげることが出来ずに Debate をやめてしまうという結果になって

しました。

リサーチが出来ないなら、せめて証拠資料を英語に訳させる作業だけでもいいからやってみたり、大会に行けない位に忙しいなら試合をテープに録音して聞かせてあげたり、スピーチが出来ないならもっと付きっきりでどうすればいいかを見守ってあげたりして、Debate を自分でやっているというのを実感させることによって Debate Section にいることの意義を見いだし、あげべきだったと思います。後になって実際に Section を辞めた人が教えてくれたのですが、私があらゆることをやってしまったので Section にいるのが気まづくなったから Section を辞めることになったそうです。Debate は試合の時は勿論のこととして、チームを組んでやるものだから一人でするものではないということをもっと把握すべきだったと思います。

#### 4.3 他大学の人の応援

同じ学年の人を甘やかしてしまったといいましたが、特に2年の前期の時は自分が試合に出る時以外は誰も来ることがなく、大会に出ない時はいつもといって良い程青学は私一人だけという寂しい状況でした。実際に他大学の人が大勢で仲良さそうに話をしているのをみて非常に羨ましかった記憶があります。

しかし、どんなに誘っても自分の大学の人が来ないことを愚痴っていても意味のないことと考へ、それなら他大学の人と話をして色々な人と仲良くなろうと思い、色々な人と会話するようになりました。そこで Debate のことは勿論として他にも色々なことが学べて非常に良かったと思っています。

最近比以前に比べると青学のみんなが試合を見に来てくれるようになりましたが、青学の人とはいつも話をしているということで、青学よりもむしろ他大学の会話してくれそうな人を求めて Opening 会場を私がさまよっているのはそういった過去の経緯からだと思います。

また私自身大会で入賞したりすることはほとんど経験していませんが、努力の結果 N.A.F.A.T. で東日本予選を通過した時、他大学の人も一緒に喜んでくれて嬉しかったです。

#### 4.4 Debate 勧誘

上で先輩を反面教師に Debate の勧誘方法を変えたといいましたが、具体的には Debate の基

礎を記したテキストを今まで自分が参加したレクチャー会などのレジメを参考に再構成し1年生に配布しました。そのテキストには極力難しい言葉を排除して Debate のルール等を簡潔に記し、さらに Debate がどういうものかを直接教え、実際に Debate をやってもらいました。当時の他 Section の2、3年生も Debate が全く分からないという状況だったので、2、3年生にも1年生とは別に Debate を教えることによって他 Section の Debate Section に対する理解を深める努力をしました。結果として2、3年生が「Debate は訳分からないし難しいし大変だからやめた方がいいよ」ではなく、「Debate ってプレバが大変かもしれないけど、凄く面白いしいいんじゃないかな」としてくれるようになって、Debate Section に対する黒い噂を取り除くのに貢献しました。たとえ1年生が Debate Section を選ばずに他 Section を選んだとしても、2年生になって「自分は Debate Section を選ばなかったけど Debate って実は面白いんだよ」と1年生に言ってくれたりする人も出てきたので良い意味での循環を生み出せたと思っています。

元々 Debater は Judge や論題に合わせてスピーチの内容を変えたりして説得することに慣れているはずなのでから Debate の勧誘にもこれを使わない手はないと思います。例えば大学といっても色々な学部があるわけで、例えば経済学部・法学部・英米文学部・理工学部では将来の目標は全然違うでしょうから、それぞれの学部の人に興味を持ちそうな内容の話をするようにしました。例えば法学部の人には「今やっている Debate は弁護士養成の為にされているものだからそういった道に進みたいなら凄くいい経験になるよ」とか、英米文学部の人には「Debate でフローをとる能力は将来通訳の仕事をする際に凄く役に立つんだよ」といった感じにです。

さらに私が思うに最近 Debater の減少という問題に今の NAFA 形式の Debate が ESS という団体が中心になって行われているという事実が忘れ去られていると思います。元々1年生は英語の習得や友人を作ることを目的に ESS に入るわけですが、他の Section や英会話学校に比べても Debate を通じて得られる英語能力は凄いものがあるということや Debate を通じて得られる学内だけでなく他大学の友人ができること(さらに Section 員が少なければ、「学内の人同士で固まることなくドンドン他大学の友人と仲良くなれるよ」と turnaround まで出来たりしますし)をもっと積極的にアピールできれば、例え他の

Section より人数的に少なかったり、他の Section に比べて努力を必要としてプレパが大変だとしても勧誘するのは想像している程難しくないと思います。

## 5. What should you do for the squad?

### 5.1 Strange Aoyama

私が1年の時、色々な上手い人を含めて Debater のスピーチを聴いていて思ったのが、「上手く説明できて凄いいけれど、同じような話をいかに上手く説明するかを競っていて議論にパラエティーがない」というものでした。私自身あまり肯定はしなくなかったのですが、2年時に大きな大会で昔のように入賞するのは難しいと思い、2年になって自分で Argument を作って「Strong Aoyama が難しいとしても、Debater だけでなく Judge を楽しませるような変わった Argument を出して Strange Aoyama と呼ばれるようにしよう」というのが、私がチーフをやるようになってから青学の Argument が普通のものよりもひと味違うものになった原因ではないかと思っています。そういった経緯もあってか、Judge さんに Round 後に「この試合は面白かった」といってもらえる方が私にとっては試合に勝てなかったとしてもその方が嬉しいです。

一時期あまりに変な Argument を作ってしまい出すかどうか悩んでいた時に獨協大学のジャッジである是澤さんにアドバイスを頂いた所、快く相談に乗ってくれて凄く感謝しています。結局はその Argument が試合を決めるような決定打にならなかったのですが、自分の大学だけでなく他大学の人も応援してくれると言うことが実感できて凄く嬉しかった記憶があります。

2001 年後期の論題では、各大学が色々な議論を出して私自身も非常に嬉しかったし、色々な議論が出来て非常に楽しかったです。しかし、その中で青学が一番 Normal な議論を出していたのは大きな反省材料であると思っています。

### 5.2 Debate を続ける訳

勝てないのが面白くないから Debate をやめちゃうという話は私が1年の頃からよく聞きましたし、私が1年生の時に組んでいたパートナーもそれを理由に Section をやめてしまいました。確かに勝てないというのは辛いかもしれませんが、Debate を始める理由として「勝つ」

ということを目的に Debate を始める人はどれだけいるのでしょうか？ほとんどの人は論理的思考力を養いたい等の Debate を通して得られる何らかの能力に憧れて Debate を始めたはずだと思います。そうであるならば、負けているということは自分の努力が足りないということだから、もっと頑張ろうと私は考えています。実際に青学では全員にそれぞれの目標を持たせて、それに向かって頑張らせています。「Debate を通じて論理的思考力を養う」という一般的なものから、「Debate を通じて女の子を口説けるようなスピーチ能力を養いたい」、「Debate を通じてプレゼンテーション能力を養うことで就職活動の時に楽しみたい」といった妙に現実的な目的を持っていたりしている人もいたりします。しかし Debate をすることに「根拠付きの理由」があれば、辛い状況があっても踏ん張ることが出来ると思いますし、そういった人は漠然とやっている人よりも苦境に陥った時の Debate に対する熱意が全然違うので Section をやめるということは防げるのではないのでしょうか？

### 5.3 Join in the tournaments

最近3年生がいないからという理由で試合に参加しないという大学の話聞き非常に残念だと思います。確かに3年生無しで試合に勝つのが難しいのは事実ですが他大学の2年生は試合に出て経験を積むことでうまくなっていくわけですから、そこで試合に出ないと差が広がって自分が3年になったとしても自分は強くないからという理由でやっぱり試合に出ないということになってしまいます。

3年生がいないということ逆を考えると2年生でも上級生の試合に好きなだけ出て沢山経験を積めるわけで、結果的にその経験が3年生になったときに実を結ぶのではないかと思います。実際に私が2年の時に人数が少ないからという理由で上級生の試合に好きなだけ出られる姿をみて、「学内で予選なしで大きな大会に出られるなんて凄く羨ましいな」と他大学の人によく言われました。たとえ2年生だけで試合に出て勝てなかったとしても誰も責めたりはしないでしょうし、むしろ頑張っていると好意的に見られると思います。実際に私が2年の後期の試合は、同学年で試合に出る人が全くいない状況だったので、全部1年生をパートナーに試合に臨んでいました。全然勝てなかったのは事実ですが、1年生にとっては上級生の試合に出るこ

とによって目標を見つけることが出来たみたいですし、私自身にとってもパートナーが出来ない分をフォローする為に頑張れたというのは非常によい経験になりました。それに他大学にも青学は頑張っているんだというのがアピールできたと思っています。

## 6. Strange members

最近の青学が主に上級生の大会に出ている Section 員を紹介しようと思います。

Sygeru(本名:今村滋)

経済学部で2年生で「青学を Strong にするっす。」といって Section に入ってきた一風変わった人です。大会会場ではニコニコしつつも他大学の人はあまり会話をしませんが、実際に会話すると豊富なネタで人生経験のゆたかさを感じさせてくれます。その経験の豊富さから出てくる Argument は誰も想像し得ないものが多く、今では青学の Strange Argument 担当になっているのではないかとたまに思ったりします。

自分の Delivery が良くないから改善するんだと言って、普段歩いている時でもスピーチ練習をしたりしている努力家でもあります。

また私と組んで試合に出る時非常に険悪で仲が悪そうという噂もありますが、試合以外では私の家で一緒にゴロゴロしながらプレストしたり、お互いの夢を語ったりするなど、試合以外では仲は良かったりします。

西郷(本名:今泉孝裕)

経済学部で1年生であるのに関わらず、上級生の大会に幾度も出ている凄い人です。私がかつて1年生だった頃を照らし合わせると、信じられない位に Debate が上手いです。

また上手い Debater と対戦する時に、私が我が身の不幸を呪っている傍らで「憧れの さんと対戦できるからワクワクするっす」と目を爛々させながら私に語る姿を見て私は何度か励まされたりしました。

もっちー(本名:望月祥子)

法学部の2年生で、とても素晴らしいデリバリーを披露してくれる Debater で、私とパートナーになった大会では私よりスピーチ・ポイント

が高かったことで、私は大いにへこみましたが、それ以来彼女に点数で負けないように頑張ろうと決意したのも事実です。

どんなに辛い時でも笑顔を絶やさない人で、試合直前に風邪で死にかけていることがありましたが、そんな時でも弱音をあげることなく笑顔で頑張っていました。

彼女がリサーチすると、「素敵なエビを見つけたの!」と言って Ultra evidence を高い確率で発見してくれて、青学の Strange Argument 作成に貢献しています。

あっこ(本名:福原亜都子)

英米文学部の3年生で2001年度の青学の Debate Section の渉外担当です。「自分は頭がそんなに良くないから、分かりやすく議論を教えてください」と言いつつ、証明の甘い所を明確に指摘してくれて非常に鋭い一面を持っています。今の Debate は定型文に単語を埋めているだけだと不満を持っているようで、実際に彼女がスピーチをすると型にとられないスピーチをするので、聞いていて非常に気持ちがいいです。どんな表現を使ったらいいのだろうかと思っている時に彼女に相談すると、スッと頭に入る分かりやすい表現で教えてくれて、いつも凄いなあと思ったりします。

## 7. Message from Strange members

NAFA 出版の田島さんが私の記事を読んで、私についてのことが何も書いてないということで、青学の Section 員に私について思うことを聞いてくれました。以下がその質問と答えです。

質問1: 高阪君が頼もしいチーフだと感じたことはありますか? また、それはどんなときですか?

私がディベートに入った時にはすでにチーフとしての貫禄はあったものの、彼は日頃そのような素振りを全く見せず、腰が低く、そう言う点でみんなを圧力ではなく、引っ張って行く力を感じました。あとは試合内容などは彼がチェックしてそれを分かりやすく解説してくれる時などは『さすがチーフ』と感じます。(ちょっと誉めすぎたかも)(福原さん)

リサーチをひとりでがんばっているとき。忙しいのに時間を見つけて広尾へエビデンスを

あつめにいってきてくれます。他のメンバーはまったくといっていいほどリサーチをしないといつもぼやいています。ごめんなさい。(今村君)

う～ん...頼もしいチーフ.....(苦悩)  
プレストしてる時にポンポンいろんなアイデアが出てくるところ、でしょうか?(望月さん)

大量のエピを運んでいる時。(今泉君)

質問2:高阪君は「下級生の教育に力を入れてきた」「入セクするとき1年生確保に力を注いだ」と、セクションの活性化に取り組んできました。ディベートセクションに入るとき、高阪君にディベートセクションのいいところはここだ、とプッシュされましたか?また、どうプッシュされて、自分の心はどう動きましたか?

ディベートの細かい内容など三四郎が熱弁を振るってる姿で、ディベートに対してのなんとも言えない濃い印象が焼き付いて私は入セクしました。一見とても難しそうなディベートの説明を、懇切丁寧に、しかもなんとかみんなに分かってもらおうと(確か...)マンガの話をもってきてすごい勢いで説明してて、その熱弁っぷりがとっても面白かったのを覚えています。具体的に彼が言った細かい内容は今となってはハッキリ覚えてませんが、分かりやすかったような気がします。三四郎を知ってる人は彼のキャラが持つ偉大な魔力を知ってるとは思いますが、後に彼はそのキャラを多少は反省して、次の機会へと生かしている様です。でも彼のそのキャラがみんなの入セクへの大きな糸口になっていると私は思います。(福原さん)

いい面のみを新入生に伝えるということはしてませんでした。いい面、悪い面を両方とも分かった上で入ってほしいと、即興でスピーチをし、ものすごく頭を使い、他のどのセクションよりも教育効果が高い、しかし団体戦、勝ち負けが絡むため厳しいということをおっしゃられていました。(今村君)

元々ディベートに入るつもりだったので、あんまり勧誘された覚えはないです(苦笑)。(望月さん)

はっきりとした勧誘はされていませんが、他セクションの人達のように大げさな話をするわけでもなく、ちゃんとディベートの良いところ、悪いところを教えてもらった覚えがあります。その当時はまだ三四郎さんはかなり謎な存在でしたが・・・(今泉君)

質問3:高阪君のスクワッド運営方法で、ここは直してほしい、こうするともっとよくなるというところはありますか?

(特にはないけど...)ディベート以外にも彼の学科はすごく忙しそうだから、死にそうになってディベートをやっている姿を見るのは、見てるこっちが辛くなるからできれば十分な休養を取って欲しい。でも彼に言っても聞かないので諦めています。ただ自分の体調管理はしっかりとて欲しい。何てたって三四郎は青学のディベートになくはならない存在だから。(福原さん)

たくさんあるのでしようが、とくにこれと言ったものはないと思います。十二分にがんばっていると思います。(今村君)

いやまあ、それはもう、ここには書ききれないほどいろいろと.....(望月さん)

僕にそんな権限はありません。(今泉君)

質問4:高阪君に何かメッセージがありましたら、よろしく願いいたします。

(お互いに学部も違うし、ディベート以外共通点もないから)ディベートが縁で色々話ず機会があって、これも人生の出会いの一つなんだと感じています。いつも勉強やディベートに追われてる日々ですが、そんな忙しい日々が三四郎にとって大学生活での良い思い出になってれば良いですね。(福原さん)

マックや吉野家ばかり行かず野菜を食べましょう(イライラ)(今村君)

来年もチーフやって下さい!!(望月さん)

僕にも春が来ますように。(今泉君)

## 8. 終わりに

Squad が厳しい状況で心の準備もあまり出来ていなかった2年生の時点でチーフを任されたのもあったと思いますが、「どうやって Squad を再建するか？」だけでなく、辛い状況であっても自分が Debate を続けるために「何のために Debate をやるのか？」というのを他の人よりも何倍も考えてきたと思います。

元々 Squad の人数が急激に減ってしまったのも、Section 内で仲があまり良くなかったというのが全ての始まりだったとも聞いていたので、Debate で口論になることがたまにあったとしても、とにかく仲良くみんなで Debate を楽しめるようにしようと思いましたし、Debate を通じて Section のみんなが将来に Debate をやっていたことを回想して本当にやっけていて自分の人生にとって本当に良かったと思ってもらえるように Debate をやることの意義についても色々考えて

きました。Debate が勝負事である以上、勝つということが非常に重要になることは私自身承知していますが、長い人生においては大学生活における Debate の成績ではなく、その経験をいかに普通の生活に活用できるかということの方が重要ではないのかとも思います。

また、モデルに似た Argument で頑張るのではなく、誰も考えつかないような Originality に溢れた Strange Argument を作るということは、作成する過程において色々なことを考える機会が得られずし、そういった Argument に対して他大学も自分たちのために対策を作ってくれる。さらにその過程において他大学の人も色々なことを考える機会が得られるという意味において、Strange Argument の存在そのものが Debate 界全体にとって価値あるものではないでしょうか？

私としては、これを機にみなさんが Debate をする意義について考えるきっかけになれば幸いです。

(こうさかゆうすけ) e-mail: [kohsaka@mva.biglobe.ne.jp](mailto:kohsaka@mva.biglobe.ne.jp)